

ews 뉴스레터

2010 Vol. 10

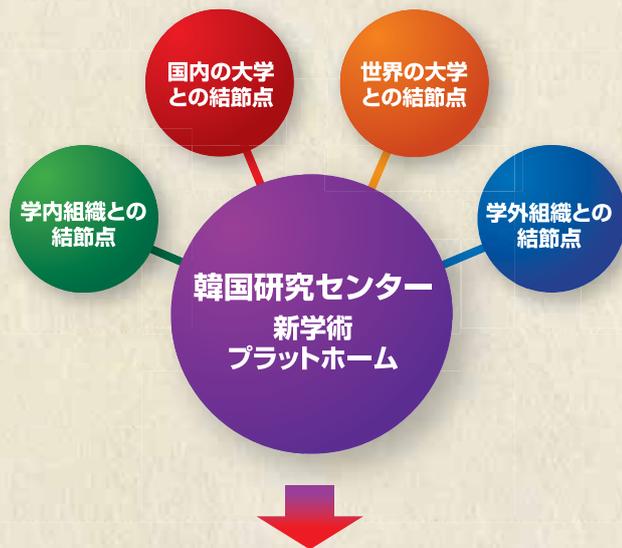
Letter

ニューズレター

九州大学韓国研究センター
Research Center for Korean Studies

CONTENTS

10号の発刊にあたって	2
第六回 日韓次世代学術フォーラム国際学術大会	4
第五回 世界韓国学研究コンソーシアムワークショップ開催	5
郭暎澤監督の映画世界—友情の年、隣邦より『チング』が来たる—	6
グローバル時代の朝鮮通信使研究	8
韓国・台湾から帝国(日本)を考える	10
植民地期および米軍政下の朝鮮映像・画像アーカイブ	11
客員教授紹介	12
韓国研究センターの研究活動一覧	14
報道記事	15



Leading an effort to
strengthen Korean studies
in the world

10号の発刊にあたって



九州大学韓国研究センター長
稲葉 継雄

韓国研究センターは1998年11月の金鍾泌韓国国務総理の来学が契機となって、1999年12月に創設(学内設置)され、2000年1月に開所式を行いました。10周年に該当する2010年には、新たな10年を展望する必要があります。したがって2009年はその橋渡しをする重要な年でありました。

当センターは、学内外の各組織を結びつける結節点として機能することを重視し、様々な計画を立て、そして実現してまいりました。

まず、学内との結びつきでいえば、P & P(九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト)の支援によって「辛基秀文庫」「梁三永文庫」「森田芳夫文庫」を開設し、11月7日に附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門と共同して同資料の有効利用を目的としたワークショップ「グローバル時代の朝鮮通信使研究」を開催いたしました。また、6月18日には法学府と共同して崔祐溶客員教授の定例研究会を、11月9日には農学府と共同して鄭賛珍客員教授の定例研究会を開催いたしました。

学外との結びつきでいえば、6月27日に韓国の東西大学校と共に日韓次世代学術フォーラム国際学術大会を開催し、約300名に及ぶ、次世代日韓研究者の参集を実現しました。また、10月24日には福岡市総合図書館と共催で福岡県民の韓国文化理解の促進を目的とした「郭暎澤監督の映画世界—友情の年、隣邦より『チング』が来たる—」を開催しました。当日は神戸からの来場もあり、例年をはるかに超える参加者を集めることができました。福岡市・釜山市行政交流都市締結20周年に当たる2009年に、当センターを媒介とすることで、日本と韓国の学術研究会が開催され、また「友情」をテーマとした韓国文化の理解講座が開かれたことは重要な意義があると自負しております。

九州大学は2009年7月に「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に採択され、国際化に向けて具体的に動き出すこととなりました。地球温暖化・環境汚染・海洋汚染をはじめとする自然科学分野、歴史認識・領土問題をはじめとする人文・社会科学分野など、現代社会が抱える問題は一国では解決できないトランスナショナルなものとなっております。こうした問題を解決するために、九州大学の掲げる国際化構想は非常に意味のあるものといえましょう。

韓国・東アジアを拠点として研究・教育活動を展開する当センターが、九州大学の国際化構想を実現するために果たす役割は大きいと考えております。それゆえ、歴史や言語などの人文科学分野に偏ることなく、しかも国内外の幅広い研究者との連携を引き続き構築していかなければなりません。そうした、学際的・文理融合的な総合研究の推進と実現を肝に銘じる所存です。

当センターは皆さまからのご支援によって運営されてきました。このご支援に応えるべく、今後もさらなる発展のために努力してまいります。今後とも、倍旧のご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



国際学術大会

第六回 日韓次世代学術フォーラム国際学術大会

主催：日韓次世代学術フォーラム

主管：九州大学韓国研究センター・東西大学校日本研究センター

協賛：国際交流基金、東西大学校

後援：日本国外務省、駐福岡大韓民国総領事館、日韓文化交流基金、九州旅客鉄道株式会社

今年で第6回目を迎える日韓次世代学術フォーラム国際学術大会が、6月27日に九州大学箱崎キャンパスで開催され、約300名に及ぶ次世代研究者が集まった。

本年は、福岡市・釜山市行政交流都市締結20周年を記念する「福岡-釜山友情年」行事が開かれているだけに、本研究センターは九州大学に学術大会を招致することに努めた。両都市の間では、「福岡-釜山超広域経済圏」形成やアジアゲートウェイ構想2011、さらに福岡・釜山大学間コンソーシアム（九州大学をはじめとする26大学加盟）結成など、学界はもちろん、政財界など社会の多様な分野における積極的な地域連携が推進されている。この意味からして、日韓の次世代研究者ネットワークの結節点として、九州大学で本大会が開催されたことには非常に大きな意義があったといえる。大会の共同テーマとしては「日韓海峡圏から見た東アジア」を掲げ、さらに日韓外交の生き証人でいらっしゃる孔魯明元韓国外交通商部長官を講演者としてお招きした。

これまで日韓関係や東アジアに関する分析と展望は、中央の視点から提示されるのが一般的であった。しかしながら、昨今急速に展開するグローバル化と地方分権化により、日韓関係もより立体的で多様な視点から語られるべき時が来たと思われる。本大会が福岡にて開催されたのを機に、次世代研究者がより重層的で多角的な東アジアの将来像について今後も議論を展開し、東アジアの共同利益の創出に貢献し得る、新たな視点からの良質な研究が多く発掘されることが期待される。

大会は、第一分科（国際関係）、第二分科（政治・法律）、第三分科（経済・経営）、第四分科（歴史）、第五分科（言語・文学）、第六分科（社会・ジェンダー）、第七分科（宗教・思想）、第八分科（民俗・人類）、第九分科（文化・芸術）が設けられ、その他、企画パネルとしてソウル大学宗教儀礼研究チームが参加した。各分科に8名の発表者と6名の討論者が配置され、聴衆を含めた学生の事前エントリーは164名（韓国103名・日本61名）の大人数に達した。この中から、日韓・東アジア、そして世界の未来を切り開く研究者が一人でも多く輩出されることが期待される。



世界韓国学研究コンソーシアム開催

第五回 世界韓国学研究コンソーシアムワークショップ開催

期間：2009年7月7～10日

会場：ハワイ大学マノア校

主催：世界韓国研究コンソーシアム

助成：韓国国際交流財団

世界韓国学研究コンソーシアムによるワークショップは、今年で第5回目を迎える。今回は、7月7～10日の日程で、ハワイ大学にて開催された。世界6カ国18大学(九州大学・ソウル大学校・高麗大学校・延世大学校・成均館大学校・オックスフォード大学・ロンドン大学・ミネソタ大学・ピッツバーグ大学・ノースカロライナ大学チャペルヒル校・ハワイ大学・ジョーンズホプキンス大学・UCLA・トロント大学・コロンビア大学・UBC・ワシントン大学・復旦大学)から、26名の次世代を担う韓国学研究者が集い、各自が進めている研究活動の一端を発表した。

九州大学からは、人間環境学府の李河妊氏と入江友佳子氏が、それぞれ「韓国の幼児教育でのマクドナルド化の影響—幼稚園教育過程運営を中心に—」「1910-1920年代朝鮮の出産及び育児に関する医療宣教活動—セブランス病院の啓蒙、出版、研究活動を中心に—」と題する発表を行った。九州大学からの発表者が2人とも女性であったように、今回の参加者の九割は女性が占めていた。今後の韓国学を引っ張っていくのは女性であり、主要なテーマも育児、出産、ジェンダーに向かっていることを予見しているかのようであった。

なお、大会では優秀な発表をした左記の3名がKF best paper awardを受賞し、\$200の賞金とハワイ大学が刊行する『Korean Studies』へ論文を掲載できる権利を獲得した。

・Kim Kyong Tae(高麗大学校)

「壬午軍乱後、明軍逃亡兵に対する対処と‘世界観’の変化」

・Dafna Zur(UBC)

「Utopia and the environment
in North Korean science fiction for children」

・KIM Yoon Young(ハワイ大学)

「Making national subjects: Education and adaptation among North Korean immigrants in South Korea」



コロキウム

郭暲澤監督の映画世界

— 友情の年、隣邦より『チング』が来たる —

日時：2009年10月24日(土)

会場：福岡市総合図書館、映像ホール・シネラ

主催：九州大学韓国研究センター、福岡市総合図書館、映像ホール・シネラ実行委員会

後援：日韓文化交流基金、財団法人福岡県国際交流センター、国際交流基金

助成：韓国国際交流財団

2009年10月24日(土)、韓国国際交流財団の助成および、日韓文化交流基金、財団法人福岡県国際交流センター、国際交流基金の後援を受けて、九州大学韓国研究センター、福岡市総合図書館、映像ホール・シネラ実行委員会が主催する「郭暲澤監督の映画世界—友情の年、隣邦より『チング』が来たる—」を開催した。

これまで当センターが企画したシンポジウムは「日韓・語り合う『書』」「韓の国風の舞」「華の香り琴の調べ」というように、「書道」「舞踏」「華道」といった芸術性・専門性の高い分野であった。ここでは和琴による「アリラン」、伽耶琴による「赤とんぼ」の演奏や日韓の舞踏家によるダイナミックな魂のぶつかりあいなどによって、「Fusion空間」という文化創造を実現することができた。

しかし本年は少し趣を変えて、芸術性と同時に大衆性を重視し、映画に着目した。また、今年は福岡市・釜山市行政交流都市締結20周年に当たり、福岡と釜山の友情年でもあるため、「友情」にも着目した。そこで、日本の韓流ブームの先駆けとなった、映画『友へ チング』の郭暲澤監督をお招きし、監督の映画観や、今後の日韓のあるべき姿を語っていただくこととした。

当日は、遠くは大阪からの来場者もあり、会場前には開始2時間前から長蛇の列ができた。これにより、九州大学が掲げる4つのコンセプトの一つ、「社会連携」に大いに貢献できたのではないかと考える。アンケート結果に多数みられた「友情年に限らず、今後もこのような企画をしていただきたい」とする意見が、市民のこの企画に対する評価を如実に表しているといえ



よう。

郭監督の口からは、博多を舞台とした映画撮影の計画があったことや、今後もその実現を夢見ていることが語られた。このシンポジウムを機会として、いつの日か、釜山と博多を舞台とした映画製作が期待されるが、そのためには日韓の関係が単なる「交流」ではなく「Partner」とならなければならない。当センターが今後もその関係構築に影ながら貢献できればと思う。

《プログラム》

- 第1部 ドラマ版「チング」30分ハイライトの上映
 第2部 トークショー「映画『チング』を語る」—郭暲澤監督にインタビュー形式で監督の映画観を語っていただくとともに観客との質疑応答を通じて今後の日韓の「友情」を考える。
 第3部 観客との交流—抽選で監督やヒョンビンがサインした記念品(帽子・Tシャツ)をプレゼント。その他、監督とのツーショット写真など

講師紹介

郭暲澤(映画監督)

1966年、釜山で医者の子として生まれる。父の後を継ぐために医大に入学するが、一年生のときに中退し、ニューヨーク大学映画学科に留学して映画を学ぶ。多くの短編作品を制作して1995年に卒業。卒業制作として撮った「営倉物語」が95年ソウル短編映画祭の優秀賞を受賞し、96年の第一回釜山国際映画祭やクレアモントフェラン国際短編映画祭などに正式出品されている。

会場の意見

- すばらしい企画ありがとうございました。監督のお話、すごくおもしろかったです。
- 今日はクアク監督の話聞いて、その映画観や思想に感動しました。日韓、また日中韓の友好を訴えるような映画をぜひとも作ってほしいと思いました。
- 福岡市図書館で保管している韓国の昔の映画(50年代、60年代、70年代)を観たいです。(たとえば、ユ・ヒョンモク監督の『誤発弾』とか)韓国映画の歴史、そこから観る時代など、講義があるとうれしいです。



辛基秀文庫開設記念ワークショップ

グローバル時代の朝鮮通信使研究

日時：2009年11月7日(土) 午前10時開会

場所：九州大学箱崎キャンパス国際ホール

主催：九州大学韓国研究センター

共催：九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門
九州大学P&P(東アジア戦後史の基礎的研究)

後援：日韓文化交流基金

朝鮮通信使研究の第一人者である辛基秀氏の名は、日朝・日韓関係史の研究者であれば知らない者はいないであろう。その辛基秀氏が2002年10月に急逝した後、その旧蔵書は遺族のお力添えによって本学へ寄贈された。現在、本学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門において、「辛基秀文庫」として整理作業が進行中である。

氏の生前の関心が多岐にわたっていたため、調査の結果、蔵書数は3,000点以上に達することが明らかとなった。文庫には書籍のほかに、雑誌や写真・フィルム、取材記録など、日朝・日韓関係史、在日コリアン、韓国・朝鮮文学研究分野での非常に貴重な資料がおさめられている。これらは寄贈者の意思を引き継ぎ、教育・研究の場で活用されるべく、作業がすべて完了した後に所蔵資料情報を公開する予定である。

今回、文庫の目録作成作業の完了にあたり、本学韓国研究センターにおいて、「辛基秀文庫開設記念ワークショップ グローバル時代の朝鮮通信使研究」の開催を決定した。ワークショップ当日は、辛基秀氏の業績と「辛基秀文庫」についての紹介をまじえながら、日英韓の第一線で活躍する研究者によって、研究発表および討論が行われた。また、本ワークショップは、「福岡・釜山友情年2009」における両国市民の善隣友好意識の増進に、学術面から貢献するねらいがある。

辛基秀文庫の開設およびワークショップの開催はP&P(九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト)の支援によって実現された。こうした研究課題は外部資金を得て行うことが容易ではないため、大きな助けとなった。今後、朝鮮通信使研究に関連する第一級の史料を所蔵する辛基秀文庫の整理を一刻も早く終え、韓国学研究所の拠点を築いていきたい。

《発表者プロフィール》

○山口華代

長崎県立対馬歴史民俗資料館学芸員。専門は近世日朝関係史、対馬藩政史。

○梁興淑(ヤン・フンスク)

釜山大学校韓国民族文化研究所助教。専門は韓国近世史、韓日関係史。

○具智賢(グ・ジヒョン)

韓国延世大学校国学研究院研究教授。『1763年癸未通信使の使行文学研究』で、延世大学校博士学位取得。江戸時代に通信使を通して行われた日韓文士の交流について関心を持ち、主に筆談唱和集を資料に研究を行っている。

○James B. Lewis(ジェームス・B・ルイス)

オックスフォード大学副教授。東洋学科で韓国史を教える。専門分野は1850年までの日韓関係史、前近代の日韓文化・経済・社会史、世界と東アジアの環境・疫学史。

○金東哲(キム・ドンチョル)

釜山大学校史学科教授。専門は韓国近世史、韓日関係史。

○中野等

九州大学大学院比較社会文化研究院教授。専門は中近世移行期研究。豊臣政権の諸政策と朝鮮出兵を契機とする国家観・世界観の変容問題にも関心をもつ。

《プログラム》

- ・「九州文化史代表感謝の辞」(高野信治・九州大学)
- ・「辛基秀文庫搬入の経緯」(中野等・九州大学)
- ・「辛基秀先生の思い出」(姜鶴子・辛基秀夫人)
- ・「近世日本の外交儀礼と東照宮信仰」(山口華代・長崎県立対馬歴史民俗資料館)
- ・「1711年『鶏林唱和集』所在筆談の特徴」(具智賢・延世大学校)
- ・「訳官の通信使参与と活動」(梁興淑・釜山大学校民族文化研究院)
- ・「Economic and Cultural Aspects of the 1748 Korean Embassy to Japan」(ジェームス・ルイス・オクスフォード大学)
- ・「通信使が見た近世日本の産業と技術」(金東哲・釜山大学校)
- ・「『文祿慶長の役』の語られ方—通信使外交の裏側—」(中野等・九州大学)



国際学術ワークショップ

韓国・台湾から帝国〈日本〉を考える

—『梁三永文庫』『森田芳夫文庫』『辛基秀文庫』を活用するための前提作業—

日時：2009年12月19日(土) 午前10時開会

場所：九州大学箱崎キャンパス国際ホール

主催：九州大学韓国研究センター

共催：九州大学P&P(東アジア戦後史の基礎的研究)

2009年12月19日(土)、九州大学の国際ホールにて九州大学(日本)・延世大学校(韓国)・成功大学(台湾)による国際学術ワークショップ「韓国・台湾から帝国〈日本〉を考える—『梁三永文庫』『森田芳夫文庫』『辛基秀文庫』を活用するための前提作業—」がP&Pの後援によって開催された。

本ワークショップは、帝国〈日本〉を日本内部からのみ考えるのではなく、戦前期に「外地」とされた韓国・台湾から考えることを趣旨とした。東アジアの近代史を考察する上で、日本・韓国・台湾が連携し、総合的に研究を進める必要があることは言うまでもない。しかしながら、現在までそのようなワークショップが開催されることはほとんどなかった。九州大学韓国研究センターを中心として、その重い第一歩を踏み出したことに開催の意義があったといえよう。

会議の中では、日本・韓国・台湾それぞれの視点から、主に「植民地近代」について多様な議論が展開され、様々な課題が提起された。こうした議論を通じて、いかに「歴史観」や「歴史理論」というものが、イデオロギーの支配下にあるのかを実感することができた。すなわち、同じ植民地経験のある韓国と台湾でありながら、歴史に対する認識は様ではなく、むしろ相対する部分が少なくなかったのである。二国間ではなく、多国間によって開催されるワークショップの醍醐味は、そうした事実を直接体感できる点にあるといつてよいのではないだろうか。

なお、来年は成功大学で第二回大会を開催することが決定された。こうした地道な努力によって学術ネットワークが形成され、そのネットワークの中で次世代研究者が育っていくことを願ってやまない。



《プログラム》

「植民地朝鮮における外国文学の翻訳と研究の制度化」(延世大学校・徐銀珠)

「植民地朝鮮における初等教員社会の実態—教員の位置づけの再検討—」(九州大学・山下達也)

「台湾文学におけるカフェタイム—1930年～1970年代の台北西区コーヒーショップにおける文芸現象を中心に」(成功大学・張志樺)

「現代韓国の歴史学の起源—植民地期との連関を中心に」(延世大学校・辛珠柏)

「植民地期朝鮮における出産と育児の変容—ミッションの医療活動が果たした役割」(九州大学・入江友佳子)

「創られた台湾『伝統民謡』—読者解釈共同体の構築と郷土文学論争」(成功大学・陳培豊)

研究集会

植民地期および米軍政下の朝鮮映像・画像アーカイブ

—映像・画像をいかに語るか—

日時：2009年12月20日(日) 午後12時30分開会
場所：九州大学箱崎キャンパス国際ホール

主催：九州大学韓国研究センター
共催：九州大学P&P(東アジア戦後史の基礎的研究)

歴史を語る上で、映画や写真といった映像・画像アーカイブが有用なことは言をまたない。しかし、それら映像・画像アーカイブを使うことは慎重を要する。なぜならば、そこに映し出されたものが必ずしも客観的で普遍的なものとは限らないからである。

そこで、植民地期および米軍政下の朝鮮映像・画像アーカイブの重要性に着目し、その整理を開始するための基礎作業として、以下の3名の講師を招聘し、研究集会を開催することとした。

長沢雅春(佐賀女子短期大学・教授)

「併合下の朝鮮映画と日本—安鍾和著『韓国映画側面秘史』を読む—」

永島広紀(佐賀大学・准教授)

「戦時末期における朝鮮軍報道部の映画製作と文芸〈統制〉の諸相」

鄭琮樺(韓国映像資料院・研究員)

「식민지기 조선 관련 영상자료의 발굴 과정 및 보존 현황 (植民地期朝鮮関連映像資料の発掘過程および保存現況)」



九州大學 韓國研究센터에서의 연구생활을 돌이켜 보며...

동아대학교 법학전문대학원 교수
최우용

1. 추억이 된 九州 韓國研究센터에서의 연구생활

지금부터 정확히 일년 전. 나는 한국연구센터의 외국인 초빙교수의 선정결과를 초조히 기다리고 있었다. 九州大學 한국연구센터는 부산과 가까운 후쿠오카에 있고 또 한국에서도 한국연구전문기관으로 널리 알려진 곳이라 꼭 한번은 연구생활을 하러 갔으면 하는 마음으로 신청서를 작성하고 기도하며 그 결과를 기다리고 있었던 것 같다. 그러던 2009년 2월 어느 날 반가운 선정결과통지를 받고 너무나 기뻐하며 즐거워했던 기억이 새롭다. 이렇게 나의 3개월간의 한국연구센터에서의 객원교수 생활은 시작되었다.

이제 이 글을 쓰며 지난 일들을 돌이켜보니 많은 일들이 그리워진다. 특히, 편안한 연구생활이 되도록 물심양면으로 도와주신 이나바 센터장님, 마츠바라 교수님, 신조상, 그리고 미즈야스 상 등 그 동안 정들었던 이들의 얼굴이 많이 떠오른다. 지금도 감사한 마음을 전하고 싶은 이들이다.

2. 일본 체재 중의 연구성과

일본에서의 연구주제는 ‘地方分權과 主民訴訟’에 관한 것이었는데, 이 주제는 한국에서도 최근 주목을 받고 있는 주제로 지난 노무현 정부하에서 제도화된 주민소송에 관하여 구체적인 연구를 하고자 하였다. 주민소송제도는 일본에서는 전후 지방자치법의 제정 시부터 도입된 것으로 소위 ‘납세자 소송’의 개념을 도입한 것인데, 일본식으로 발달시켜 온 제도이다. 즉 주민들이 납부한 세금이 제대로 사용되고 있는지를 주민들의 눈으로 감시하는 제도를 말한다. 이 제도가 한국에도 도입되어 시행되고 있어, 일본에서의 경험을 연구해서 그 장단점을 파악하고 한국에서의 제도 운용에 도움을 주고자 하는 의도에서 연구를 하게 되었다. 결론적으로 말하자면 아직 완전한 연구가 끝난 것은 아니지만 일본체재 기간 중 많은 자료조사를 하였고, 이를 바탕으로 현재 본격적인 집필을 하고 있다.

아울러 지방행정체제의 개편문제에 대해서도 관심을 가지고 병행하여 연구를 하였으며, 이에 관한 결과는 얼마 전 논문으로 발표하기도 하였다.

그리고 일본에서의 연구생활 중 九州大學 법학부의 교수님들과 대학원생들 앞에서 한국의 ‘지방자치’에 관해 발표한 것은 필자로서는 좋은 경험이었다. 많은 참가인들이 한국의 지방자치제도와 현황에 대하여 관심을 보여주었는데, 개인적으로는 발표 준비를 하면서 힘들었던 부분도 있었지만, 지금은 한국연구센터에서의 연구생활 중의 소중한 연구자산 중의 하나로 남아 있다.

그 외, 체재 기간 중 준비한 자료를 바탕으로, ‘행정법총론요해’라는 학부학생용 교과서와 ‘행정법 주요판례집(상)(하)’을 2009년 8월에 출간하였다. 이 모든 결과는 한국연구센터에서의 연구의 결과라고 할 수 있다. 개인적으로 많은 연구 수확을 거둔 3개월이었다.

3. 향후의 연구과제

최근 필자는 일본에서의 기초연구를 바탕으로 ‘한국의 지방행정체제의 개편문제 및 이와 관련한 헌법개정문제’에 대한 연구를 진행하고 있다. 일본에서도 초광역행정체제인 道州制에 관한 많은 논의가 진행되고 있는데, 일본에서의 도주제의 논의는 한국의 지방행정체제 개편에도 많은 시사점을 주고 있다. 향후에는 이러한 비교연구를 보다 철저히 하여 한일 간에 실질적인 도움이 되는 연구결과를 도출해낼 생각이다.

4. 한국연구센터, 후쿠오카 그리고 香椎 해변...

일요일에는 숙소 근처의 香椎 해변을 산책하거나 조깅을 하면서 보냈다. 현해탄 건너에 있는 그리운 가족들을 생각하며, 평화로운 휴일을 보낸 기억이 새롭다. 기숙사에서 학교까지는 날씨가 좋은 날은 자전거로 출퇴근을 했었는데, 하루 운동으로는 아주 적당한 거리였다. 간혹 귀가 길의 名島橋 위에서 맞이하는 석양은 정말 일품이었다. 다시 후쿠오카에 간다면 꼭 名島橋 위의 붉은 태양을 다시 만나고 싶다.

끝으로, 정말 가족처럼 따뜻하게 대해 주고, 아무런 걱정 없이 연구에 몰두하게 해 주신 한국연구센터의 마츠바라 교수님, 신조 상 그리고 미즈야스 상에게는 거듭 감사의 말을 전하고 싶다. 여러분들이 한일관계의 우호증진을 위해 일선에서 노력하시는 진정한 분들을 절실히 느낀 3개월이었다. 모두들 항상 건강하길 진심으로 기원하는 바이다.

2010년 1월 9일 아침에

九州大学 韓国研究センターでの 研究生生活を振り返りながら…

東亜大学校法学専門大学院 教授
崔祐溶

1. 九州韓国研究センターでの研究生生活の思い出

今からちょうど一年前、私は韓国研究センターの外国人招聘教授の選定結果をそわそわしながら待っていた。九州大学の韓国研究センターは釜山から近い福岡に位置しており、また韓国でも韓国研究専門機関として広く知られていたため、必ず一度は研究生生活をしに訪問できたらと思い、申込書を提出してその結果を待っていた。2009年2月のある日、嬉しい選定結果通知を受けとって、歓喜した記憶が今でも新しい。このように私の3ヶ月間の韓国研究センターでのビジティングプロフェッサー生活は始まった。

今になってこの文を書きながら振り返って見ると、多くのことが懐かしく思い出される。特に、充実した研究生生活ができるように物心両面で手伝ってくれた稲葉センター長、松原教授、新城さん、そして光安さんなど、その間お世話になった人々の顔がたくさん浮び上がる。今も感謝の気持ちを伝えたい人々だ。

2. 日本滞在中の研究成果

日本での研究主題は「地方分権と住民訴訟」に関してであった。この主題は韓国でも最近注目されている主題であり、以前の盧武鉉政権下で制度化された住民訴訟に関する具体的・体系的な研究をしようとした。住民訴訟制度は、日本では戦後の地方自治法制定時から導入されたもので、いわゆる「納税者訴訟」の概念を取り入れて、日本式に発達させてきた制度である。すなわち、住民の納めた税金がまともに使われているかどうかを住民の目で監視する制度を言う。この制度が韓国にも導入・施行されており、日本での経験を研究してその長短所を把握し、韓国での制度運用に役立てたいという意図から研究をするようになった。結論を言うと、まだ完全に研究が終わったわけではないが、日本滞在中に多くの資料調査ができ、現在それに基づきながら本格的に執筆をしている。

並行して、地方行政体制の改編問題についても関心を持って研究しているが、これに関する成果は以前論文として発表した。

そして日本での研究生生活の中で、九州大学法学部の教授たちと大学院生たちの前で韓国の「地方自治」に関して発表したことは筆者としては良い経験だった。多くの参加者が韓国の地方自治制度と現況について関心をもったので、個人的には発表準備をしながら大変だった部分もあったが、今は韓国研究センターでの研究生生活中の大事な研究資産の一つとして残っている。

その他、滞在期間中に準備した資料を土台として「行政法総論要解」という学部学生用の教科書と「行政法主要判例集上・下」を2009年8月に刊行した。このすべての結果は韓国研究センターでの研究成果といえる。個人的に多くの収穫を得られた3ヶ月間だった。

3. 今後の研究課題

最近、筆者は日本での基礎研究を土台として「韓国の地方行政体制の改編問題及びこれと関連した憲法改訂問題」に関する研究を進めている。日本でも超広域行政体制である道州制に関する多くの論議が展開されているが、日本での道州制の論議は韓国の地方行政体制の改編にも多くの示唆を与えている。今後はこのような比較研究をより徹底して行い、日韓で実質的に役に立つ研究成果を導き出したいと思う。

4. 韓国研究センター、福岡、そして香椎浜海岸…

日曜日には宿舎近くの香椎浜海岸を散歩したり、ジョギングをしたりした。玄海灘の向こうにいる懐かしき家族を思って、平和な休日を送った記憶が目に浮かぶ。寮から学校までは天気のいい日は自転車で通ったりしたが、運動するには適当な距離であった。たまに帰りの名島橋の上で見た夕陽は逸品だった。再び福岡へ行くことがあったら必ず名島橋の上の赤い太陽に会いたい。

最後に、本当に家族のように暖かくしてくださり、何の心配もなく研究に取り組むようにしてくださった韓国研究センターの松原教授、新城さん、そして光安さんには重ねて感謝の言葉を伝えたい。みなさんが韓日関係の友好増進のため、一線で努力する真正な方々だということをつくづくと感じた3ヶ月間であった。ご健勝をお祈りします。

2010年1月9日の朝、釜山から

韓国研究センターの研究活動一覧

年	日時	活動内容	場所・主催・共催・助成
2000	6月18日	第44回定例研究会 崔祐溶先生(東亜大学校)「住民参加の韓日比較」	【会場】九州大学法学会議室
	6月25日	第45回定例研究会 李栄薫(ソウル大学校) 「共同研究を提案するようになったこれまでの経過」 朴煥 珉(落星台経済研究所) 「いわゆる日帝強制連行者名簿について」 永島広紀(佐賀大学) 「戦前期の福岡県・北部九州における朝鮮半島南部出身者の動向」	【会場】九州大学システム生命科学府
	6月27・28日	日韓次世代学術フォーラム 第6回国際学術大会	【主催】日韓次世代学術フォーラム 【主管】九州大学韓国研究センター、東西大学校日本研究センター 【協賛】国際交流基金、東西大学校 【後援】日本国外務省、駐福岡大韓民国総領事館、 日韓文化交流基金、JR九州 【会場】九州大学
	7月7～10日	第5回世界韓国学次世代ワークショップ	【会場】ハワイ大学
	8月1日	第46回定例研究会 槻木瑞生「1920年代の大陸への移住朝鮮人—朝鮮人の流動性—」 花井みわ「日本の間島政策と間島朝鮮人教育」 小林玲子「大韓帝国期に設置された境界警務署の役割について —『旧境界警務署鐘城分署ノ日記中間島関係事件抜粋』を用いて—」	【会場】九州大学韓国研究センター
	10月24日	コロキウム 「郭暎潭監督の映画世界—友情の年、隣邦より「チング(友)」が来た—」	【主催】九州大学 韓国研究センター、福岡市総合図書館、 映像ホール・シネラ実行委員会 【助成】韓国国際交流財団 【後援】日韓文化交流基金、財団法人福岡県国際交流センター、 国際交流基金 【会場】福岡市総合図書館映像ホール・シネラ
	11月7日	辛基秀文庫開設記念ワークショップ 「グローバル時代の朝鮮通信使研究」	【主催】九州大学韓国研究センター 【共催】九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門、 九州大学P&P 【後援】日韓文化交流基金 【会場】九州大学国際ホール
	11月9日	第47回定例研究会 鄭賛珍 「Values of Quality Attributes in the Korean Beef Market: Identifying Sources of Heterogeneity」	【会場】九州大学箱崎キャンパス システム生命科学府1階セミナー室
	12月19日	国際学術ワークショップ 「韓国・台湾から帝国(日本)を考える—『梁三永文庫』『森田芳夫文庫』 『辛基秀文庫』を活用するための前提作業—」	【主催】九州大学韓国研究センター 【共催】九州大学P&P 【会場】九州大学国際ホール
12月20日	国際シンポジウム 「植民地期および米軍政下の朝鮮映像・画像アーカイブ —映像・画像をいかに語るか」	【主催】九州大学韓国研究センター 【共催】九州大学P&P 【会場】九州大学国際ホール	
2010	2月4日	第48回定例研究会 アントニーナ・パーヴロヴナ・エム (サマルカンド国立外国語大学韓国語学科長)	【会場】九州大学韓国研究センター



「分断」を描く平衡感覚

4人の男の物語「友へチンズ」(2001年)は、当時「シヨリ」が持っていた韓国映画の観客動向調査を呼び寄せ大ヒット作だ。その監督として知られる釜山出身のクァク・キョンテクが福岡市を訪れたのを機に、近況を聞いた。

「次は若者の歓喜と死の叫び」

韓国のクァク・キョンテク監督に聞く

「チンズ」から8年、この間「チャンピオン」(02年)、「トンケの悪い空」(03年)、「タイフーン」(05年)、「愛サラン」(07年)などの作品を手掛けてきた。記録的な巨費を投じて製作した「タイフーン」は、北朝鮮が韓国に輸出してきた鮮魚を韓国に輸出してきた一家が韓国側の判断で拒ま

れ、家族をなくした男が復讐になり、途方もない復讐を企てる物語だ。主演の女優はキム・ドンゴン、イ・シヨンジエの魅力もあり話題になった。

この映画もそうだが、南北分断の背景とする映画でのクァク監督の視点には、南北を等距離に置く平衡感覚がある。

それは、私の父親が北朝鮮出身であることと無関係ではないでしょうね。北にいるおしやハイとして南に来る、かまっけてくれと頼まれる。幼いころよくそのような夢を風たといふ。

「家族だからかまいたい、若者が、一方で歓喜の声を

いや、国が奪うのだから甲斐しなくて」と、葛藤するのです」

このような夢にうなされたクァク監督の内面に沈んでいる、南北に引き裂かれた民族の悲劇。それが、映画づくりの姿勢に投影するのだから、クァク監督は、村上龍の長編小説「王島を出入」の映画化権獲得(06年)に際して福岡を訪れたことがある。しかし当時、北朝鮮によるテロの発射をめぐる事柄の緊張感がネックとなり、実現しなかった。

02年にサッカーのワールドカップ(W杯)日韓共催の大会で韓国内が熱狂していた。映画で南北の船が銃撃戦を繰り返す事件があった。

上段、一方で死の叫び声を上げる。次の作品ではそのような対比を描きたいですね」

「チンズ」を20分間のテレビ放送でリメイクしたドラマ版「チンズ」の日本での放送は未定だが、届けば今年末ごろ、遅くとも来年には放送できるのでは、という。

(前半後付)

- 語の覚え
- 1 生成成 3三三 4
 - 2 三三三 3三三 4
 - 3 同五 2三三 同風 4
 - 4 一飛成まで6手詰め
 - 5 輸送初手41歩成
 - 6 同馬は3四脚 3三
 - 7 合1二脚以下脚余り
 - 8 詰め正解は3三玉に
 - 9 飛車を打ち3二と
 - 10 2三龍が絶妙の手順で
 - 11 4一飛成までとなる

2009年11月11日 西日本新聞

【事実/ 칼럼】 「無理しん」 안전은 최대의 서비스



2009年 11월 14일 부산 삼천사거리 참주회 발원했다. 동원한 국무총리는 어젯날인 15일 공보 장선 부산대학교 병원을 찾아 무릎을 꿇고 "단국 일에서 발원의 사고를 당한 분들의 가족에게 깊은 사과의 말씀을 드린다"고 위급의 뜻을 표명했다. 이어 일본인 최성자 위가족들은 "어라가지로 고통 주치고 있습니다. 참후 철저한 안전 대책과 원인 규명을 부탁드립니다"라고 총재에게 당부했다.

위가족들은 사형하는 가족의 시신을 눈앞에 두고서도 분노의 말과 달리 "죄를 짓치고 있다"고 했다. 일본식으로 말하면 '실례하게 대한 사과'다. 국공 선 눈으로 주위를 둘러 본노를 보면가나 하는 모습은 보이지 않고 달달하게 말하는 일본인이 한국인의 눈에는 어떻게 보였을까? 한국인들이었던 어떨게 국무총리를 대했을까? '아이고, 아이고~ 내가지 살려나라'고 외치는 소리가 참주회를 울리는 걸로을까?

사고 당시 부산에 있었던 나는 국제사건으로 가서 사건관련 현장을 직접 눈으로 확인했다. 광복절이 나 위세를 통해 일하는 시골 한가운데 위치한 5층 건물에 2층에 위치한 사격장이 있었다는 사실이 놀랐다. "당당, 이런 장소에서..." 실랑을 보는 시각권이 일반인들이 참변하게 놓이선 발원의 한 면에 있다는 것 자체가 일본에서는 상상조차 할 수 없는 일이다.

그날자는 부산의 광복 광개자에 위치한 1박2일이라고 하는 짧은 기간 안에 한국을 방문한 일본인 관광객들의 이동 시간을 절약하기 위해서는 국제사건 관련 일본인들이 말하는 스타, 음식, 시계 세트를 제공할 수 밖에 없었다고 한다.

일본인 최성자 위가족들은 한국 대사관에 "다시는 한국 땅에 발을 들여놓지 않겠다"고 일침이라고 한다. 가족이나 친구의 죽음을 치명한 방문한 심정을 이해하지 못하는 것은 아니다. 하지만 그동안 부산-후쿠오카 무궁의 후 2009년 1월 14일 공 한 시정으로서 이러한 일을 듣는다는 것은 슬픈 현실이다. 2008년도에 귀속한 부산 건물 왕성한 일본인은 약 7만명으로 매년 증가 추세다. 그런 만큼 이번 참주가 일본인 관광객들에게 미치는 영향이 적지 않다. 현통어 한국 정부는 2010년부터 3년간을 '한국 방문의 열'이라고 하여 1천만명의 외국인 관광객 유치목 목표를 하고 있고, 지난 11월 11일에는 그 계획도를 개시했다.

일본으로 귀국한지 얼마 안된 참주 시간이 온 경찰을 조사하기 위해서 후쿠오카 시간을 대상으로 여론 조사를 실시했다. 조사 대상자수는 154명으로 충분한 연령층에 달한 조사가 아니었기 때문에 그 조사의 신뢰성은 높지 않지만 "참주한 안전 대책이 어떤만큼 철저하는 일본인 부산을 가지 않겠다"는 의견이 62%에 이르렀다.

이번 사건을 계기로 일본인들에게 있어서 손쉽게 방문할 수 있는 관광지가 된 부산의 이미지 추락을 막으려면 어떻게 해야 할 것인가? 또 국무총리에게 함께 침통한 표정으로 위급을 방문하여 조의를 나타낸 최성자 부산시장의 모습만 일본의 텔레비전에서 크게 방영했다. 특별히도 최성자의 사색을 수송한 한여 참주부 대책과 한국관광협회 회장회를 중심으로 한 모교 활동 등의 후지는 말할 수 없을 것이다.

다, 이도 함께 한국인과 일본인 조로자 16명 관광협회 총본부 부장장이 지냈던기를 바란다.

부산-후쿠오카 관광 협력 대책

그날자는 그것만으로는 안전 대책을 받지만 행정당국의 책임과 신뢰 회복이 전제된다고는 할 수 없다. 한 시정공 으시다 하로서 후쿠오카 시정에게 제안하고 싶다. "현통어"이라는 말이 있다. 2009년은 부산-후쿠오카 행정교류 협정체결 20주년을 그 축하 행사안으로 끝낼 것이 아니다. 부산과 후쿠오카시는 공동으로 협정체결이 될 정례회인 등의 중요한 관공회 협력, 소명회축어) 참주지변에 대한한 대우성과 같은 각종 대우성을 만들어 어라가지 위기상황에 대응하기 위한 세계 최고 레벨의 안전 확보 프로젝트를 구상해야 한다고 본다. 아울러 이를 위해 부산과 후쿠오카시는 시정공회 협동위원회를 설치해야 한다.

부산과 후쿠오카 시가 공동으로 직선한 협동 위원회를 부산과 후쿠오카 시대의 관광 사색을 협력하고 협력한 시정에는 공동의 역할 여로를 교류하는 것은 어떨까? 참주 정례회 뿐만이 아니라 "물시문으로 안전"으로 확대해 리스도일 등의 위해 대우성을 만들어도 좋을 것이다.

어쨌든 국제 교류는 단순한 교류의 시대에서 벗어나 관광-공공기관의 협력과 함께, 부산과 후쿠오카 시에 있어서 "안전은 최대의 서비스이다"라는 시정 인식과지도 공유하는 시대를 어떨 시키지 않으면 안 된다.

부산일보 | 10월 | 일제사간 2009-10-18 | 10:31:30

2009年12月15日 釜山日報

nformation

ご投稿ください!

ニュースレターでは、できるかぎり幅広い広報を行うため、さまざまなコーナーを設け、皆様のご投稿をお待ちしています。

研究紹介

韓国・日韓関係にまつわる領域研究のもとでえられた具体的な研究成果を紹介します。また、韓国研究センターが支援する各種事業の成果の報告、諸分野の研究手法や研究の背景、内外で発表された優れた研究を紹介するコーナーです。

インタビュー

座談会やインタビューで、研究者の素顔をご紹介したいと思います。

研究ノート

“科学者のひとりごと” “研究に関して日頃思っていること” “韓国との出会い” 等々お寄せください。

その他

関連する学会・研究会・シンポジウムの案内、近著紹介、等につきましても掲載いたしますので、随時お知らせください。

センター利用案内

開館時間 / 10:00~17:00

九州大学韓国研究センターでは下記のホームページ URL で事業紹介を行っています。

<http://rcks.isc.kyushu-u.ac.jp/>



■最寄りの交通機関

- JR博多駅 → 地下鉄中州川端乗換(貝塚行) → 箱崎九大前又は貝塚下車
- 福岡空港 → 地下鉄中州川端乗換(貝塚行) → 箱崎九大前又は貝塚下車

バスのりば

- 天神14番のりば No.1, 59, 61, 161の「九大前」行き、「月見町」行き → 九大前下車
- 天神郵便局前のりば No.21~27 → 九大北門下車